

JINDAI SPORTS

陸上競技部 駅伝チーム 第101回 箱根駅伝予選会

総合順位：9位 最終総合タイム：10:59:12

順位	氏名(学科・学年)	タイム
41	酒井 健成(人間科・3年)	01:05:02
52	大岩 蓮(人間科・2年)	01:05:13
59	志食 隆希(経済・3年)	01:05:16
75	西坂 昂也(人間科・3年)	01:05:29
78	近藤 大智(経済・2年)	01:05:30
87	上田 航大(人間科・1年)	01:05:41
131	塩田 大空(人間科・3年)	01:06:19
162	中西 良介(人間科・4年)	01:06:47
166	滝本 朗史(人間科・2年)	01:06:53
175	中野 蒼心(人間科・3年)	01:07:02
251	新妻 玲旺(人間科・2年)	01:08:14
—	宮本 陽叶(人間科・3年)	—

10月19日(土)に東京都立川市にて開催された第101回東京箱根間往復大学駅伝競走(以下、箱根駅伝)予選会を総合タイム10時間59分12秒上位10名の合計、総合9位で通過した。2025年1月2日(木)・3日(金)に行われる箱根駅伝本大会に通算55回目の出場を決めた陸上競技部駅伝チーム。季節外れの異例の暑さであったが、見事なレース展開で出場を掴み取った飯塚厚主将(人間科・4年)は、酒井健成選手(人間科・3年)をはじめ、出場選手全員が素晴らしい走りを見せてくれた。しかし、これまでの道のりは容易ではなかったと話してくれた。今年度の夏季強化合宿は、体調不良者や怪我人が例年よりも多く、不安要素の多い練習も多かったという。その中でもBチームから急成長する選手も出始めたことで、チーム全体の底上げは出来たとのことだ。



箱根駅伝本大会 出場決定! 通算55回目

陸上競技部駅伝チーム 飯塚厚主将(人間科・4年) 出身校：静岡立派商業(静岡)

箱根駅伝本大会への出場を決めた陸上競技部駅伝チームの今後の練習と目標について、飯塚主将に話を聞いた。「今年度から、走行時間」ではなく、「走行距離」で練習する方法に切り替えた。最初は順応することが難しかったが、フォームが仕上がってきた選手が増え、意識することで、走行量も増え持久力も上がっているという。区間によって様々なコースを見せる箱根駅伝本大会のコースは、勾配がきつい権太坂がある最長距離の2区や800mを超える高さを駆け上がる5区など過酷なコースも多いが、飯塚主将は「箱根駅伝予選会と違い、箱根駅伝本大会では、個人の技量が勝敗を大きく分ける。どの選手がどの区間でも走り切れるだけの力を身につけて、箱根駅伝本大会までの練習に打ち込みたい」と熱い思いを語ってくれた。ハードな練習によるケガが無いことを願っている。

箱根駅伝本大会に向けて!

最後に「箱根駅伝本大会に出るからには、シード権を獲得できる順位に食い込みたい。毎年多くの方から、沿道で声援をもらっていた。選手たちの力になっていて、上位を目指して走る姿に期待してほしい」と熱く語ってくれた。悲願のシード権獲得を目指す陸上競技部駅伝チームを応援したい。

陸上競技部駅伝チーム 中野剛監督

大後栄治前駅伝監督から継がられた、陸上競技部駅伝チームの新たな駅伝監督の中野剛監督に、箱根駅伝予選会から本大会に向けた選手たちの状況を聞いた。

中野駅伝監督は「今年の夏は、選手たちの不調もあり苦しい期間だった。ただ、若い選手たちのポテンシャルを再認識できる夏もあった」と振り返る。長い間、実業団で指揮を執ってきたこともあり、完成された選手をすつと見てきたが、短期間で成長する陸上競技部駅伝チームの選手たちを見て、改めて「若き力」の可能性を知れたそう。

当日のレース運びについて「15kmまでは無理をしないように選手たちに伝えていた。選手たちの状況判断も良く、全体順位を落とすことなく余力を残せた」と話す。「また、新たな試みとしてスポーツ戦略室と連携をとり、集中応援の位置を500m以上ゴール側にずらし、選手たちのラストスパートをかけるタイミングを調整した」と話してくれた。戦略は成功し、ラスト1kmは箱根駅伝予選会通過チームでは、1番のタイムだったという。

最後に「箱根駅伝予選会を通して、改めて「応援の力」を感じた。選手への保護者の方や大学関係者、そして神奈川大学を応援してくれる地元の方々の声援一つひとつが、選手たちの後押しとなっている。箱根駅伝本大会でも、選手たちを応援してほしい」と思いを語ってくれた。箱根駅伝予選会をきっかけに陸上競技部駅伝チームの選手たちをぜひ応援してほしい。

その他の選手情報は
こちら

駅伝チームの
最新情報は
こちら



宮藤 信一 団長
(経営工学・3年)
出身校：攻玉社(東京)

私たちが応援を盛り上げます!

12月27日(金)に鎌倉芸術館大ホールで第84回定期演奏会を開催した管弦楽団の宮藤信一団長(経営工学・3年)に本大会に向けての応援演奏について話を聞いた。「普段の演奏会は、お客様に楽しんでもらうための演奏だが、応援演奏は、顧客と楽しみながら、演奏ができる」と箱根駅伝予選会を振り返る。応援演奏は、長時間かつ野外的な演奏を求められるため、難しさもあるが貴重な経験になっているとのことだ。最後に「神奈川大学を背負って、一生懸命に走っている選手たちの後押しとなるような演奏をしたい。チャリーディング部と息の合ったパフォーマンスをするので一緒に応援してほしい」と話してくれた。箱根駅伝本大会は管弦楽団の演奏にも注目したい。

尾崎 汐音 主将
(経済・3年)
出身校：神奈川興立横浜立野(神奈川)

管弦楽団

管弦楽団HPはこちら

チャリーディング部

チャリーディング部HPはこちら

第101回 箱根駅伝 神大応援ポイント

① 八丁囃	② 東神奈川駅東口	③ 保土ヶ谷駅前	④ 矢沢合流地点	⑤ 遊行寺
1区 / 10区	2区 / 9区	2区 / 9区	2区 / 9区	3区 / 8区
往：8時55分 復：12時15分 京浜急行 八丁囃徒歩5分 「川崎警察署入口」 交差点付近	往：9時15分 復：12時00分 JR京浜東北線・横浜線 東神奈川駅徒歩6分 京浜急行京急 東神奈川駅徒歩4分 「神奈川二丁目」交差点付近 往路：スシロー前	往：9時30分 復：11時40分 JR横須賀線 保土ヶ谷駅東口徒歩4分 「円福寺前」交差点付近	往：10時00分 復：11時15分 JR東海道本線・横須賀線 戸塚駅西口徒歩15分 矢沢交差点より 小田原方面へ 約200メートル	往：10時25分 復：10時50分 JR東海道本線・小田急線 藤沢駅北口徒歩15分
GoogleMap	GoogleMap	GoogleMap	GoogleMap	GoogleMap

⑥ 高砂歩道橋	⑦ 茅ヶ崎第一中学校前	⑧ 湘南海岸公園付近	⑨ 国府津駅前大磯寄り	⑩ 箱根湯本駅前付近
3区 / 8区	4区 / 7区	4区 / 7区	4区 / 7区	5区 / 6区
往：10時30分 復：10時45分 JR東海道本線 辻堂駅南口徒歩15分 「高砂歩道橋」交差点付近	往：10時45分 復：10時30分 JR東海道本線 茅ヶ崎駅南口より茅ヶ崎公園 野球場方面へ徒歩20分 または第09系統 ヘッドランド入口 バス停付近	往：11時00分 復：10時15分 JR東海道本線平塚駅 南口徒歩20分 南口から海岸方面に直進し、 134号線沿い 高浜台歩道橋付近	往：11時40分 復：9時25分 JR東海道本線 国府津駅徒歩5分 駅から東京方面へ100m、 のんき亭前	往：12時25分 復：8時50分 箱根登山鉄道 箱根湯本駅徒歩3分 駅から東京方面に約200m
GoogleMap	GoogleMap	GoogleMap	GoogleMap	GoogleMap

箱根駅伝を一緒に応援しよう!

各部の代表に聞いてみた! あなたの「リフレッシュ方法」は?

華道の魅力をグローバルに発信!

華道の魅力を知りたい、気軽に体験したい方には、KADO-Japanese flower arrangementをおすすめしたい。同サークルは、華道を通して「日本の美」を見つめることを目的に活動しており、日本人のみならず海外の方にも華道の魅力を発信している。



鈴木 保希 部長(経済・2年)
出身校: 常葉大学附属菊川(静岡)

KADO-Japanese flower arrangement

KADO
HPはこちら



者でも気軽に始められるという。また、海外からの留学生と積極的交流しているのも特徴の一つで、主にみどりやいんぱすのグローバルラウンジで活動しており、留学生と交えたイベントも開催している。日本の伝統文化を通して、交流の輪が広がるのも貴重な経験になっている」と話す。サークル名を英語表記にしているのも、国際性を意識して命名したそうだ。



花が好きで華道を始めた鈴木部長のリフレッシュ方法は「香りを楽しむ」とのこと。特に「カウブランド(通称:牛乳石鹸)の青箱」が気に入っており、自宅に常備している。疲れた時は、香り嗅ぐことでリフレッシュしている」と話す鈴木部長。高校受験の際は、試験会場に持っていくほど好きなように、人生の節目にも寄り添ってくれたようだ。その他にも、香水や柔軟剤の香りも好きなように自宅には多くコレクションがあるという。香りのみの話をする、植物から抽出した香り成分である精油(エッセンシャルオイル)を使って、心身を癒やかに回復するアロマセラピーという自然療法もあるので、同じく鈴木部長も癒やされているだろう。ご興味のある方は「香りを楽しむ」時間を作ってみてはいかがだろうか。

Refresh



お茶を通じておもてなしの心を!

礼儀や日本の伝統文化を学びたい方は「おもてなしの心」を学べる茶道研究部をおすすめしたい。茶道は「難しそう」とイメージを持つ方も少なくないと思うが、何歳からでも始めることができ、経験し学んでいくことで、人との出会いの大切さも学べるという。



杉山 あおい 部長(建築・3年)
出身校: 田園調布学園(東京)

茶道研究部

茶道研究部
HPはこちら



に行われる茶会でお点前を披露している。「今年度は、台所の再開や神大フェスタへの参加もあり、活動の幅が広がっている。部員たちも新しいお点前の勉強をしたいと要望を上げてくれるので、活気のある活動ができています」と話してくれた。神大フェスタでは、椅子とテーブルで作法を行う「立礼(りゅうれい)」のお点前を披露したように、常に新しいことにチャレンジしている姿が印象的だった。最後に「今後は、屋外でお茶をを楽しむ「野点」の「お茶会」を開催して、お客様をおもてなししたい。また他大学の茶道団体とも交流を広げて、合同でお茶会を開催するなど活動の幅を更に広げていきたい」と思いを話してくれて、今後もおもてなしの心を学び続ける茶道研究部の活動が楽しみだ。



杉山部長のみならず、茶道研究部のリフレッシュ方法として「ボードゲーム」を上げてくれた。もともと、部室にボードゲームが置いてあったのだが、今年度から再開した合宿中の休憩時間に遊んだことをきっかけに、部内で流行しているとのこと。特に「バーテンダウド」というボードゲームが人気であり、稽古で集中した後の息抜きとして楽しむことで、メリハリのついた稽古にもなっているとのこと。近年はボードゲームカフェなど、遊べる場所も増えてきているので、興味のある方は一度体験してはいかがだろうか。

Refresh



まだ見ぬ景色を探しに!

普段見られない景色を見たい、達成感を得たいという方は山岳部をおすすめしたい。同部は、登山をメインとした「アルパイン部門」とボルダリングやリードクライミングに特化した「ズボーツクライミング部門」に分かれて活動しており、今回はアルパイン部門を中心に話を聞いた。



近藤 雅也 副部長(理・2年)
出身校: 静岡市立(静岡)

山岳部

山岳部
HPはこちら



近藤副部長のリフレッシュ方法は「スポーツクライミング」で、部活動以外でも個人的に行っているそう。クライミングは様々な課題があり、成功した時の達成感は気分がすっきりする」と話してくれた。また、部員以外にも一般利用者とコミュニケーションをとる機会もあるようで、そこでも気分転換になっているようだ。



Refresh



3部昇格に向けて!!

11月3日(日)・4日(月)に神奈川県立スポーツセンターで開催された2024年度神奈川県一般新人戦に6名の選手が出場し、西川基選手(経済・4年)がライト級のトーナメント戦を勝ち抜き、優勝を果たしたボクシング部。



川越 智稀 主将(法律・3年)
出身校: 神奈川県立神奈川総合産業(神奈川)

ボクシング部

ボクシング部
HPはこちら



川越主将は、大学から多くの強豪選手が出場する中、最後は「勝ちを全面に出して、戦いを勝ち抜くことができた」と振り返る。これまで負け続けていた大学を相手に、勝利を取ったことは大きな一歩になったことに違いない。川越主将は、大学からボクシングを始めた未経験者であったが、一からパンチの打ち方を学び、得意なディフェンスに重点をおきながら、スパーリングで技術を磨いている。やりがいについて「厳しい練習やパンチの恐怖を感じる競技だが、続けていくことで自分の限界を超えるような達成感を味わえる」と語ってくれた。また、部員同士の仲が長く、拳を交わした部員同士だからこそ、互いの努力や辛さを理解し合える見えない絆で繋がった特別な仲間だと誇りに感じている。



リフレッシュ方法として「筋力トレーニング」を挙げた川越主将。ボクシング部の練習後に大学内のジムで鍛えているそう。引き締まりつつも一回り大きくなる身体を見て自己肯定感が高まり、競技面でもパンチ力が向上しているという。そんな川越主将の姿を見て、筋力トレーニングを始める選手も増え始め、チーム全体の士気も更に高まっており、予想外の好影響があったそう。『自分を変えたい、もっと強くなりたい』という思いがある方は、筋力トレーニングをしてはいかがだろうか。

Refresh



縁の下の力持ち

マネージャー取材日記

白石 日夏乃 さん(現代ビジネス・1年) 出身校: 香川県立高松商業(香川)

今回のマネージャー取材日記は、関東学生ハンドボール連盟で3部昇格に向けて活動しているハンドボール部だ。

マネージャーの白石日夏乃さん(現代ビジネス・1年)は、ハンドボールの強豪校である香川県立高松商業で活躍していた。大学では様々な事に挑戦をしたいという思いもあり、選手としての道は諦めたが「好きなハンドボールに関わりたい」との思いで、ハンドボール部のマネージャーに就いた。

マネージャーの主な仕事は、練習中の補助、試合のスコア管理、備品・救急品の管理、戦術サポート、メンタルケアと多岐に渡り、3名のマネージャーで分担して行っている。白石さんは、高校までの経験を活かして「戦術サポート」を中心に選手たちを支えている。「選手同士で相談しづらいことも、一歩引いたマネージャーの立場であれば相談しやすいこともある。客観的な立場で選手たちをサポートして、試合で活躍している姿を見たときにやりがいを感じる」と話してくれた。

最後に「今まで学んできたことを最大限に活かしてハンドボール部をサポートしたい。来年度は、必ず3部昇格を果たしたい」と思いを語ってくれた。今後のハンドボール部の活躍が楽しみだ。



ハンドボール部
活動詳細は
こちら



サッカー部
活動詳細は
こちら

指導者インタビュー

サッカー部 大森西三郎 監督



今回の指導者インタビューは、サッカー部の大森西三郎監督に話を聞いた。大森監督が指揮するサッカー部は、高学年化により空室が増加した竹山団地(横浜)市緑区を選んだ。竹山団地は、竹山団地プロジェクトに取り組み中。同プロジェクトは、団地内で介護予防教室やスマホ教室の開催、清掃活動や休耕地での野菜栽培など住人の方に寄り添った活動をしている。これらの活動は高く評価され、2024年3月7日(木)に横浜市役所アトリウム内で開催された横浜アトリウムアワード2024で大賞を受賞した。



大森監督は、地域住民のご協力のおかげで、竹山団地プロジェクトは5年目を迎えることができた。共同生活を通じて選手たちの自発的な成長が見られている」と話している。練習と本活動の両面において、練習と本活動の両面において、練習と本活動に繋がっているという。

課外活動団体へのご支援をお考えの皆様へ

神大スポーツ・文化振興賛助金募金



右のQRコードからアクセス



*リフレッシュの写真は全てイメージです

神大アスリートが世界へ挑む！日本代表特集！！

スケート部

ワールドユニバーシティゲームズ日本代表に選出！！



スケート部
HPはこちら



青木 龍之介 選手
(人間科・2年)
出身校：高崎健康福祉大学高崎(群馬)

青木選手は「毎年、夏の間は体調が優れないことが多く、調子を落とすことが多かったが、今年度は調子良く練習に臨んでいた。また、ランニング系のメニューに力を入れて、持久力の向上に注力してきた」と振り返る。青木選手はフィジカルに自信があるため、持久力を上げて全体的な底上げをしてきた。また、選考会について「緊張もあつたが体調は万全で、滑りの感覚も良かった。正直なところ勝てた自信はなかったが、各種目で上位に食い込むことができたのは、練習の成果が発揮されたと感じた」と話してくれた。「日本代表に選ばれたことが初めてのことで大変嬉しい。世界の強豪選手たちと戦うために、ワールドユニバーシティゲームズまでの時間を大切に練習をしていきたい」と思いを話してくれた。今後は、実戦練習の比重をあげることで、本番を意識した練習をしていくよう、さらに進化した青木選手が見られることが非常に楽しみだ。

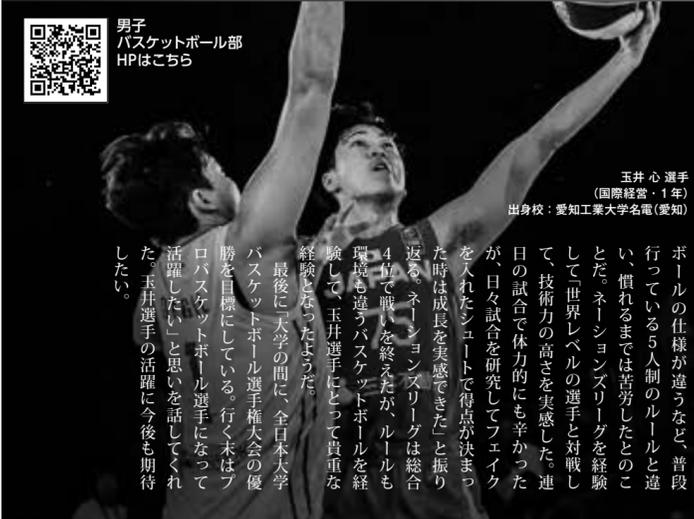
10月12日(土)・13日(日)に開催されたFISU冬季ワールドユニバーシティゲームズ(以下、ワールドユニバーシティゲームズ)に日本代表選手として選出された。青木選手は男子入間科・2年が1500m・5位、500m・6位、1000m・3位の好記録で、2025年1月21日(水)・23日(木)にトリノで開催されるFISU冬季ワールドユニバーシティゲームズ(以下、ワールドユニバーシティゲームズ)の日本代表に選出された。

男子バスケットボール部

若き選手たちが日本代表として活躍！！

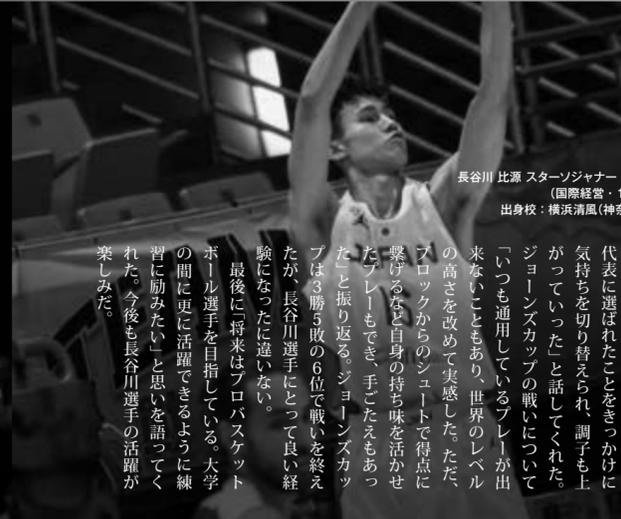


男子バスケットボール部
HPはこちら



玉井 心 選手
(国際経営・1年)
出身校：愛知工業大学名電(愛知)

玉井選手は、競技人生初の日本代表であり、嬉しさと緊張がこみ上った。3×3スリーエックススリリーは未経験だったが、代表に選ばれた以上は最善を尽くしたいと思つたと振り返る。3×3は、人数以外にも試合時間の短さやボールの仕様が違うなど、普段行っている5人制のルールと違い、慣れるまでは苦労したとのことだ。ネーションスリーグを経験して「世界レベルの選手と対戦して、技術力の高さを実感した。連日の試合で体力的にも辛かったが、日々試合を研究してフェイクを入れたシュートで得点が決まった時は成長を実感できた」と振り返る。ネーションスリーグは総合4位で戦いを終えたが、ルールも環境も違うバスケットボールを経験して、玉井選手にとって貴重な経験となった。



長谷川 比濤 スターソジャーナ 選手
(国際経営・1年)
出身校：横浜清風(神奈川県)

長谷川選手は「昨年度は最終選考まで残ったが、あと一歩で日本代表を逃し、悔しい思いをした。今年度は、日本代表になれて嬉しい」と喜びを噛み締めていた。ジョーンズカップでの状況について「6月初旬は調子が上がらず、悩んだこともあったが、日本代表に選ばれたことをきっかけに気持ちを切り替えられ、調子も上がっていった」と話してくれた。ジョーンズカップの戦いについて「いつも通用しているプレーが出来ないこともあり、世界のレベルの高さを改めて実感した。ただ、ブロッカーからのシュートで得点に繋げるなど自身の持ち味を活かしたプレーもでき、手こたえもあつたと振り返る。ジョーンズカップは3勝5敗の6位で戦いを終えたが、長谷川選手にとって良い経験になったに違いない。

最後に「将来はプロバスケットボール選手を目指している。大学の中に更に活躍できるような練習に励みたい」と思いを語ってくれた。今後も長谷川選手の活躍が楽しみだ。

レスリング部

U20世界選手権に日本代表として出場！！



レスリング部
HPはこちら



星野 レイ 選手
(人間科・1年)
出身校：日本体育大学桜華(東京)

星野選手は練習を積み重ねていたので、緊張は少なかつた。試合運びも良く、無失点でJOC杯を優勝することができた」と振り返る。U20世界選手権については「昨年度も優勝しており連覇がかかっていたが、足のケガの影響で出場を断念せざるを得ず、悔しさが残ったようだ。星野選手は、2024年明治杯全日本選抜選手権での優勝や優秀な成績で文部科学大臣に表彰されるなど国内でもトップクラスの選手であり「ケガの間も上半身のフィジカルトレーニングを継続する。早くマットの上に戻りたい」と意識高く語ってくれた。



本多 香里菜 選手
(人間科・2年)
出身校：安部学院(東京)

本多選手は「U20世界選手権に出られる最後の年であり、今まで培ってきた力を最大限に出し切る時だと気持ちを奮い立たせてJOC杯に挑んだ。緊張もあり初戦は身体が思うように動かなかったが、準決勝からは気持ちを切り替えて戦えた。優勝できて本当に嬉しい」と話す。U20世界選手権について「初めての海外大会で、食事の調整に苦労したが、コンディションは悪くなかった。試合では、海外選手のフィジカル面の強さが力負けしてしまつたが、良い経験ができた」と振り返る。最終順位を5位で終えた本多選手は「この経験を活かし、練習の励みになっていきたい」と意気込みを見せつけた。

最後に「まずは2024年天皇杯全日本選手権で優勝を取りたい」と目標を語ってくれた。今後も本多選手の活躍を応援したい。



神大フェスタ実行委員会
佐久間 悠介 委員長(経済・3年)
出身校：福島成蹊(福島)



神大フェスタ
HPはこちら

佐久間悠介委員長(経済・3年)は「今年のテーマは「Blink」で、日本語の「瞬き」が意味する通り、両日でわずか16時間という短い開催時間が、時の流れを非常に早く感じさせる「幸せで楽しい時間」に満ち溢れてほしいという願いを込めた」と話してくれた。

「今年度はSNSでの広報に力を入れたこともあり、昨年度を大幅に超える約17,000人の方にご来場いただきました。来場者のみならず参加団体の方も非常に楽しんでおり、こちらも嬉しい気持ちになった」と振り返る。その他、第21回以来の「神大スター決定戦」を復活させるなど神大フェスタ実行委員会が一丸となって企画に取り組んでいる姿が印象的だった。

最後に「開催後も数日は「夢のような時間だった」と感じていた。改めて神大フェスタは「ご来場された方々」と一緒に完成する大学祭であると実感した。後輩たちが、さらに進化した神大フェスタを今後も創り上げられると思うので楽しみにしてほしい」と話してくれた。



神大フェスタ × みなとみらい祭 開催レポート！

今年度も神奈川大学の秋の風物詩となった2つの大学祭が大盛況のうちに幕を閉じた。10月26日(土)・27日(日)に横浜キャンパスで開催された「第26回神大フェスタ」と11月2日(土)・3日(日・祝)にみなとみらいキャンパスで開催された「第4回みなとみらい祭」だ。大学祭について、神大フェスタ実行委員会の佐久間悠介委員長(経済・3年)とみなとみらい祭実行委員会の種村太郎委員長(国際経営・3年)の両名にそれぞれインタビューをした。



みなとみらい祭実行委員会
種村 太郎 委員長(国際経営・3年)
出身校：神奈川県立横浜栄(神奈川県)



みなとみらい祭
HPはこちら

種村太郎委員長(国際経営・3年)は「今年のテーマは「SAIL AWAY - 夢の続きを -」に決定した。「SAIL AWAY」を意味する「SAIL AWAY」は、みなとみらい祭実行委員会がまた見聞世界へ果敢に挑戦していく様を、大海原へ出航する船に重ね合わせた。サブテーマの「夢の続きを-」は、昨年度の「～夢のもう一幕～」に続く形の意味を込めた」と話してくれた。

「サークルゼミブースに多く出展いただけたことで、学生主体の大学祭として充実した内容となった。また初日が大雨にも関わらず、多くの方にご来場いただけたことも大変嬉しい」と振り返る。昨年から始まった人気のステージ企画に「照明」の演出が追加されるなど年々クオリティも上がっているため、今後も非常に楽しみにしている。

最後に「今年もより良くなった」と言っていた内容にすると、OB・OGの方と約束をしたが、果たせたと思う。来年度も3年生を主体に、私たち上級生がサポートするので、楽しみにしてほしい」と話してくれた。



みなさまご来場いただきましてありがとうございました！ 来年度も楽しみにお待ちしております！



長谷 珠那 選手(前主将)
(人間科・4年)
出身校: 東京都立墨田川(東京)

9月5日(木)・8日(日)に開催された第100回日本学生選手権水泳競技大会(以下、インカレ)にて、3年ぶりに女子総合優勝を果たした水泳部。100回の節目となる大会では、全学年が力の全てを出し切り勝利を掴み取った。

長谷珠那選手(人間科・4年)は、女子総合優勝を目標に練習を重ねてきた。インカレ当日は、卒業された先輩方の思いも背負って試合に臨んだ。3年ぶりに頂点に立つことができ、嬉しい気持ちでいっぱいになった」と嬉しく振り返る。今年度は、力のある1年生が多く入部したこともあり、チームも活気づいてきた。インカレ直前の合宿でも質の高い練習ができたそうだ。

インカレ女子総合優勝!! 1年生が大会で躍動!!



「インカレ初日は、長岡愛海選手(現代ビジネス・1年)の200m背泳ぎでの優勝をはじめ、幸先の良いスタートを切れた。続く2日目も、小島優々美選手(人間科・1年)が1000m平泳ぎで準優勝するなど好調ではあったが、他大学も想定以上に点数を獲得している。油断はできなかった」と話してくれた。3日目は、長谷選手の中でも印象に残る試合があった。女子4×100mメドレーリレー決勝を上げてくれた。「女子4×100mメドレーリレーは、これまであと一歩で勝利を逃すことが多くあった。アンカーを務めた同期の川口菜美選手(人間科・4年)が2位で泳ぎ切ってくれて、4年間の集大成を感じることができた。感動した」と話してくれた。様々な思いの中で、女子総合優勝を果たせた水泳部に賞賛を送りたい。

水泳部



水泳部HPはこちら



小島 優々美 選手
(人間科・1年)
出身校: 白鷺女子(神奈川県)

小島選手は、1000mと2000m平泳ぎでどちらも準優勝に輝き、女子総合優勝に大きく貢献した選手の一人だ。「初めてのインカレで不安も大きかったが、試合当日の会場の大盛り上がりを見て高揚した。神奈川県水泳部としてこの場で戦えて嬉しかった」と振り返る。「1000mでは優勝を目指していたが、あと一歩届かず悔しい気持ちだった。ただ、苦手な2000mで準優勝できたことは自信に繋がった」と話してくれた。水泳部に入部してからは、ウエイトレトレーニングを増やすことで、ひとかき・ひとけりの力も上がり、その努力が今回に結びついたのである。



長岡 愛海 選手
(現代ビジネス・1年)
出身校: 山形市立商業(山形)

長岡選手は、1000mと2000m背泳ぎで2冠に輝いた。「1年生での2冠は水泳部でも史上初の快挙であり、華々しい活躍を見た。『もともと2000mは得意科目ではなかったが、大学入学後からペース配分を意識した練習を重ねてきた。日々の練習で持久力も上がったこともあり、2000mでも優勝できたと思う』と振り返る。個人的には2冠を達成した喜びもあるが、それ以上にチームに貢献できたことの方が嬉しかった」とも語り、水泳部への愛を見せた。

最後に「選手毎に目標を立てて臨んだインカレだが、多くの選手が個人目標を達成することができた。この経験を活かして、連覇を果たして欲しい」と後輩たちにメッセージを残してくれた。今後も水泳部の活躍から目が離せない。



吉岡 道泰 主将
(人間科・3年)
出身校: 専修大学松戸(千葉)

8月31日(土)・10月20日(日)まで開催された令和6年度神奈川大学野球連盟秋季1部リーグ戦(以下、秋季リーグ)にて、8勝3敗で5年ぶり57回目のリーグ優勝を果たした硬式野球部。今年度は、自己に打ち勝つことを意味する「克己心」をスローガンにして、練習に打ち込み、優勝を掴み取った。

チームを率いてきた佐藤太陽選手(人間科・4年)は「春頃は、チームに守備や攻撃などに自信の持てないと感じていた。『勝つために何が必要か』をチームで再確認しながら、練習に打ち込み、選手一人ひとりが『守備を頑張る』という意識を持ちながら、日々研鑽を積んできた。秋季リーグについて『守備を中心に試合のリズムを作っていくことが出来た。特に9月30日月の桐蔭横浜大学との3戦目は、守備に徹した試合運びができ、無駄な失点を抑えながら勝利ができたことが成長が楽しめた。』

57回目のリーグ優勝!! プロ野球ドラフト会議で 2名が指名へ!!



硬式野球部



硬式野球部HPはこちら



佐藤 太陽 選手(前主将)
(人間科・4年)
出身校: 静岡県立浜松商業(静岡)

佐藤選手は、2024年プロ野球ドラフト会議の育成選手選考会議にて埼玉西武ライオンズから2位指名を受けた。秋季リーグでは、最優秀選手賞に選ばれた佐藤選手は、俊足を活かしたプレーとパワーのある打撃力が魅力の選手である。



佐藤 太陽 選手(前主将)
(人間科・4年)
出身校: 静岡県立浜松商業(静岡)

最後に「来年こそは春季リーグで優勝し、神奈川で行われる全日本大学野球選手権大会に出場したい。そして全国制覇を成し遂げたい」と熱い思いを語ってくれた。今後も硬式野球部の成長が楽しみだ。

心に残った試合だった」と振り返った。「リーグ優勝して、喜びよりも結果を残せた安心が大きかった。後輩たちは、明るい性格の選手が多いのでこの調子で頑張ってもらいたい」と話してくれた。新チームを託された吉岡道泰主将(人間科・3年)は「先輩から受け継いだ良いところを残しつつ、チームを引っ張っていききたい。さらに進化した硬式野球部を作っていく」と話してくれた。

吉岡選手は、2024年新人選手選考会議(以下、プロ野球ドラフト会議)にて福岡ソフトバンクホークスから2位指名を受けた。高い瞬発力と俊足を活かした盗塁能力と肩の強さを活かした守備能力が魅力の選手である。



吉岡 道泰 主将
(人間科・3年)
出身校: 専修大学松戸(千葉)

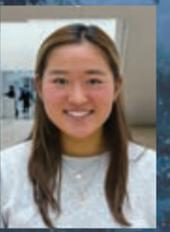


佐藤 太陽 選手(前主将)
(人間科・4年)
出身校: 静岡県立浜松商業(静岡)

スマホから手軽に!
神大スポーツ
WEB版
最新号から
バックナンバーまで
ご覧いただけます



日本学生 サーフィン選手権で 悲願の優勝!!



菅谷 帆那 選手
(国際文化交流・3年)
出身校: N高等学校(沖縄)

菅谷帆那選手(国際文化交流・3年)は、10月26日(土)・27日(日)に開催された第53回秋季全日本学生サーフィン選手権のJPSA日本サーフィンスペシャルショートウェイククラスで優勝する好成績を残した。

菅谷選手は、大会当日までは、潮見表や天候を見ながら海に行ける日は必ず練習をしてきた。ただ、大学生は学業が本業であるため、両立をすることが大変だった。振り返る。サーフィンは環境に依存するスポーツでもある。練習の出来る時間が非常に貴重なの。その中でも学業のスケジュールをこなしていった。初日の予選会は、楽しみながら勝ち抜くことが出来た。翌日の準決勝・決勝に繋げられる良いスタートを切れたと笑顔で話す姿が印象的だった。優勝を決めた試合については「準決勝は、慎重になりすぎず5分間は波に乗れない時間があった。決勝では、この反省を踏まえて、乗れる波はほとんどと挑んでいった。昨年度は準優勝で悔しい思いをしたが、今回は優勝かできて非常に嬉しかった」と話してくれた。菅谷選手は幼少期からサーフィンを始め、中学生から大会を意識した本格的な活動を始めた。最初の頃は、波に巻かれる恐怖などもあった。ただ、波に乗れる時の喜びや達成感を励みに練習を行ってきた。今年度は、今後の優勝の嬉しさはひととおである。

最後に「来年度は、プロサーファーになることを目標としている。その為、練習を欠かすことなく技術を上げていき、各大会で優勝を重ねていきたい」と話してくれた。来年度は「プロサーファー」として活躍する菅谷選手を期待したい。